

大田桜台 高等学校 令和6年度（3学年用） 教科 商業 科目 ソフトウェア活用

教 科： 商業 科 目： ソフトウェア活用 単位数： 2 単位

対象学年組： 3 学年 1 組～ 5 組 選択者

教科担当者： 工藤 大観 亀川 巧

使用教科書： （ ソフトウェア活用(実教出版 商業736)・全商情報処理検定模擬問題集ビジネス情報1級(実教出版) ）

教科 商業 の目標：

【知 識 及 び 技 能】商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 ソフトウェア活用 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	A 企業活動とソフトウェア活用 【知識及び技能】 企業活動において、どのような目的でソフトウェアが活用されているのか理解するとともに、その技術の仕組みを習得する。 【思考力、判断力、表現力等】 ソフトウェアを活用することで、企業活動にどのような変化をもたらすことができるかを思考するとともに、課題を発見できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ソフトウェアの活用方法について、積極的に考える取組ができる。	1章 企業活動とソフトウェア活用 1 節 ビジネスにおけるソフトウェアの活用 1章 企業活動とソフトウェア活用 1 節 ビジネスにおけるソフトウェアの活用 2 節 ビジネスにおけるソフトウェアの進化 ・教材	【知識・技能】 企業活動において、どのような目的でソフトウェアが活用されているのか理解できたとともに、その技術の仕組みも習得することができた。 【思考・判断・表現】 ソフトウェアを活用することで、企業活動にどのような変化をもたらすことができるかを思考でき、課題も発見できた。 【主体的に学習に取り組む態度】 ソフトウェアの活用方法について、積極的に考える取組ができる。	○	○	○	6
	B 情報通信ネットワークの活用 【知識及び技能】 ネットワークの導入や運用について理解するとともに、管理や保護の仕組みを習得する。 【思考力、判断力、表現力等】 情報資産の保護に関して、必要性やリスク、情報流失による影響を思考し、適切な対応や解決策を提示できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ネットワークや情報資産の保護について、積極的に考える取組ができる。	2章 情報通信ネットワークの活用 1 節 情報通信ネットワークの導入と運用 2 節 情報資産の保護 ・教材	【知識・技能】 ネットワークの導入や運用について理解でき、管理や保護の仕組みも習得できた。 【思考・判断・表現】 情報資産の保護に関して、必要性やリスク、情報流失による影響を思考したうえで、適切な対応や解決策を提示することができた。 【主体的に学習に取り組む態度】 ネットワークや情報資産の保護について、積極的に考える取組ができたとできた。	○	○	○	6
	C 表計算ソフトウェアの活用 【知識及び技能】 表計算ソフトウェアを利用した集計や分析、自動化などの活用方法を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 課題の解決に向け、適切やデータ処理やリサーチを選択し、解決に向けた一連の流れを説明できる。 【学びに向かう力、人間性等】 課題の解決に向け、積極的に考える取組ができる。	3章 表計算ソフトウェアの活用 1 節 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析 2 節 表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ 3 節 手続きの自動化 ・教材	【知識・技能】 表計算ソフトウェアを利用した集計や分析、自動化などの活用方法を司会できた。 【思考・判断・表現】 課題の解決に向け、適切やデータ処理やリサーチを選択することができ、解決に向けた一連の流れを説明することができた。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題の解決に向け、積極的に考える取組ができたとできた。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
2 学 期	D データベースソフトウェアの活用 【知識及び技能】 データベースソフトを利用して、フォームやレポートの作成ができるとともに、自動化や構造の仕組みを理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 課題の解決に向けて必要となる、データベースの構造やリレーションシップ、正規化などを自ら考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 課題の解決に向け、積極的に考える取組ができる。	4章 データベースソフトウェアの活用 1 節 ビジネスとデータベース 2 節 データベースの作成と操作 3 節 手続きの自動化 4 節 データベースの構造	【知識及び技能】 データベースソフトを利用して、フォームやレポートの作成ができ、自動化や構造の仕組みを理解できた。 【思考力、判断力、表現力等】 課題の解決に向けて必要となる、データベースの構造やリレーションシップ、正規化などを自ら考えることができた。 【学びに向かう力、人間性等】 課題の解決に向け、積極的に考える取組ができたとできた。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1

2 学 期	E データベースソフトウェアの活用 【知識及び技能】 SQLの操作が理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 目的に合ったSQLを選択し、適切なデータ処理ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 課題の解決に向け、積極的に考える取り組みができる。	4章 データベースソフトウェアの活用 5節 SQLの操作	【知識及び技能】 SQLの操作が理解できた。 【思考力、判断力、表現力等】 目的に合ったSQLを選択し、適切なデータ処理ができた。 【学びに向かう力、人間性等】 課題の解決に向け、積極的に考える取り組みができた。	○	○	○	7
	F 業務処理用ソフトウェアの活用 【知識及び技能】 グループウェアや業務処理用ソフトウェアの概要を理解し、活用することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 課題解決に向けて、グループウェアや業務処理用ソフトウェアを導入するメリットやデメリットを考え、汎用ソフトウェアとの比較をすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 課題の解決に向け、積極的に考える取り組みができる。	5章 業務処理用ソフトウェアの活用 1節 グループウェアの活用 2節 販売管理ソフトウェアの活用 3節 給与計算ソフトウェアの活用	【知識及び技能】 グループウェアや業務処理用ソフトウェアの概要を理解し、活用することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 課題解決に向けて、グループウェアや業務処理用ソフトウェアを導入するメリットやデメリットを考え、汎用ソフトウェアとの比較をすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 課題の解決に向け、積極的に考える取り組みができる。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
3 学 期	G 業務処理用ソフトウェアの活用 【知識及び技能】 システム開発の流れを理解し、表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを利用したシステム開発ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 課題解決に向けて、アルゴリズムを考え、流れ図を用いて一連の処理を表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 課題の解決に向け、積極的に考える取り組みができる。	6章 情報システムの開発 1節 システム開発の基礎 2節 アルゴリズムの基礎 3節 情報システムの開発演習	【知識及び技能】 システム開発の流れを理解したうえで、表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを利用したシステム開発ができた。 【思考力、判断力、表現力等】 課題解決に向けて、アルゴリズムを考えたうえで、流れ図を用いて一連の処理を表現できた。 【学びに向かう力、人間性等】 課題の解決に向け、積極的に考える取り組みができた。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
							合計 70